

月刊「キリスト教書評誌」

本のひろば

September 2020 9

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2020年9月1日発行(毎月一回発行)第753号

● 出会い・本・人

書物を持って来てください 岩村義雄

● 特集「疫病と歴史」を学び直すなら

この三冊! 村上陽一郎

● 本・批評と紹介

アウグスティヌス 著/佐藤真基子、片柳榮一、水落健治 訳

アウグスティヌス 著作集第19/I 詩編注解(3) 山田 望

W・フーバー 著/宮田光雄 監修/佐藤司郎、木部尚志、小嶋大造 訳

正義と法 千葉 眞

李 信建 著/朴 昌洙 訳 キリスト教神学とは何か 齋藤五十三

林 牧人 編 信仰生活ガイド 主の祈り 篠田真紀子

大頭眞一 著

アブラハムと神さまと星空と 創世記・上 ゲオルギイ 松島雄一

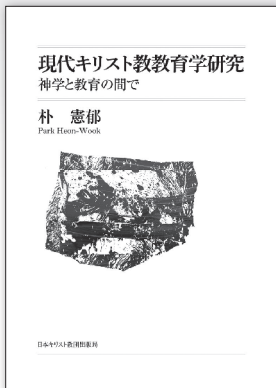
金子晴勇 著 わたしたちの信仰 原田博充

近刊情報

書店案内

東京神学大学で長年キリスト教教育学を講じてきた著者の精選論文集

現代キリスト教教育学研究



神学と教育の間で 朴憲郁

多くの神学生を牧会・教育の働きの場に送り出してきた著者による、聖書神学、教会教育、キリスト教学校教育、教育者養成、人間形成など多岐にわたる視点からキリスト教教育学を論じた集大成的著作。

◆A5判 上製・680頁・8,250円

2020年8月24日刊行予定

推薦の
ことば

朴憲郁先生が神学的研鑽を重ねてきたこれまでの歩みの集大成 東京神学大学学長 芳賀 力

病、信仰、救いについて、医療現場から紡ぎ出された貴重な考察

病と信仰

病を担うイエスと生きる

黒鳥偉作

病者にキリストが寄り添い、その病を共に担うこと。病者自身がキリストに倣って他者と共に歩む者とされていくこと。医療の最前線に立つ医師であり、伝道者でもある著者が、聖書、生涯の師・平山正実、ナウエンに学びつつ記す。

◆四六判 並製・144頁・1,430円

2020年8月25日刊行予定



目次

第一部

- 1 苦難の僕と病を担うイエス
- 2 病を担うパウロの信仰告白
- 3 癒やしの安息日を生きる
- 4 病を担う調停者ヨブ——新しい人間の誕生

第二部

- 5 平山正実の共苦と希望
- 6 神とのとりなし
——平山正実の附論を読み解く
- 7 病を担うナウエンの心の軌跡



「書物を持って来てください」(Ⅱテモテ四・13)

岩村義雄

活字離れでしょうか。江戸時代においても、瓦版が長屋の大家さん、立て札よりも説得力があったのに、現代では全国新聞も発行部数を減らし、社員の早期退社を募っていると聞きます。グーテンベルク印刷機の発明により、「知識」は民衆の生き方を変化させました。本は、研究、論考、説教に必要な牧師や神学者だけのものではなくなつたのです。ただし活字は生き物です。独り歩きもします。いつの時代にあつても、字句拘泥主義を振りかざす教条主義が台頭すれば、クリティック「批判」も求められます。

現在、新型コロナウイルス禍の波をかぶつて、アマゾン等のオンライン業界や動画配信業界は売上を伸張し、SNSによる情報が氾濫しています。

本の価値が下がつたのでしょうか。確かにキリストの弟子は、「無学な普通の人」でした(使徒四・13)。師であるイエスも学問をしたわけではありません(ヨハネ七・15)。また書物

も残されませんでした。しかし、イエスは弟子に言われました。「天の国のことを学んだ学者(グラマテウス)は皆(マタイ十三・52)と。二律背反の「無学の普通人」と「学者」の両義性コンテキストの読解力が求められています。

災害大国日本で、被災された人々、限界集落に住む人々、在日コリアンの呻きに無関心、無知であつてはいけません。敬虔さや教理の理解、会堂に集まり合うことだけが、救済の証しではありません。「非宣教ケア」と、「非言語的コミュニケーション」の時代の到来です。宗教者と世俗的市民が「共生」するには、ハーバーマスのいう「言語的コミュニケーション」の「翻訳」が必要です。「公共空間」の主軸を「お上^{かみ}」から民衆に復帰させたい。

「書物を持って来てください」。

(いわむら・よしお) (社) 神戸国際支縁機構理事長



「疫病と歴史」を学び直すなら ▼この三冊！

村上陽一郎

(むらかみ・よういちろう) 東京大学・国際基督教大学名誉教授

今COVID-19のパンデミックな流行の結果の一つで、カミュの『ペスト』が洛陽の紙価を高からしめているという。実を言うと、私の旧著『ペスト大流行』(岩波新書、一九八三年)も、眠りを起こされて、このところ増刷りを重ねており、いち早く、文庫化を申し込んでこられた出版社も一社に止まらない。著者としては、増刷りは勿論嬉しいが、同時に少し当惑もしている。カミュも幽界で同じような思いをしているのではなからうか。

ところで、パンデミックな流行と書いたが、私が『ペスト大流行』の中で、「パンデミック」という言葉を使ったときには、校正から、一言でよいから解釈を加えて欲しい、と注文がついた。COVID-19のお蔭で、今日では誰もが理解しているが、四十年前には、一般的には使えない単語だったわけである。ギリシャ語の「大衆」を表す〈tenos〉に、「広く」という意味の〈pan〉が付されて出来た言葉だが、もともとは「上」あるいは「間に」と

いう意味もある〈epi〉と「大衆」とを結びつけた〈epidemic〉に由来する。さて、歴史のなかで、疫病を描いた書物は数多い。研究書もあれば、カミュのそのように、疫病が流行する際の人間の行動や判断、あるいは社会の特殊な動きなどを描いた文藝の作品も少なくない。ここで三冊を挙げよ、というご注文だが、これは難しい。例えば文藝の世界で、と定めても、さらにペストという歴史的流行病に限っても、誰もが挙げるだろうが、ボツカチオ『デカメロン』(邦訳は幾つもある)、ダニエル・デフォー『疫病流行記』(泉谷治訳、現代思潮社、古典文庫、一九六七年)、あるいは『サミュエル・ピープスの日記』(白田昭訳、全十巻、国文社、一九八七―二〇一二年。なお翻訳者は途中死去のため、途中から二人の訳者が訳業を引き継いだ)、それに当然既述のカミュの作品など目白押しである。

用意している。

翻訳は多々あるが、私の馴染みで書かせていただければ、野上素一訳、岩波文庫版(全六冊、一九四八年)を挙げておきたい。ペストの報告は、序詞に続く初日の冒頭「序話」と出された部分である(岩波文庫版の第二冊)。因みに、ボツカチオは、こうした世俗的な楽しみに錘を載せた作品を書いてきた自分を、その後否定して、違った人生を歩むことになるが、いずれにしても、そうした物語と鮮やかな対照を成す、ペスト流行の悲惨さは、貴重なドキュメントとして今日に珍重されている。面白いのは、この災禍が、自国に始まったものでなく、他所の土地から移ってきたものだ、と、強調していることで、これも、現代の状況に共通する言説と言える。「事の起こりは数年前東方諸国に始まって、無数の生霊を滅ぼした後、休止することなく、次から次へと

ボツカチオは、史上最悪のパンデミックと言われる十四世紀のペスト(通称「黒死病」)に際して、フィレンツェの惨状を冒頭で縷々描写しているところが、本体の「十日物語」、つまり十日間、ペストによる惨憺たる世相をよそに、男三人、女七人が集まって、楽しくそれぞれ十の物語を語り合おうという趣旨とは別個に、有名になった。十人が十の話を十日間する、都合百の話があることになるが、その内容は専ら艶笑譚に近く、ペストの憂さをコントラストとして考えられている。実際ボツカチオは、「この忌まわしい書き出しは、たとえば旅行者にとつて、険しく聳え立った山のようなものにほかならないのでございますが、その向側には美しい快い平野が横たわっています、の上り下りが苦しければ苦しいほど、それだけ、旅行者には快感を与えらるるのでございます」という文章を冒頭に

蔓延して、禍いなことには、西方の国へも伝染して来たものでございました。ところで、ペストの世界的な流行には、かなりはつきりした三百年という周期がある。何故そうなるのか。パンデミックによって、世界中の生き残った人々が、社会的な免疫を得る、というのも、その一つの理由かもしれないが、しかしそれが三百年になる必然性はどこにもない。また世界を見渡せば、限局された地域では、今日でも、ペストは散発しているのであって、天然痘のように、一応世界から駆逐されたというわけではない。もつとも天然痘ウイルス自体は、国際的にみれば、将来の再発に備えて、厳重な管理の下で幾つかのセンターで保管されている。

いずれにせよ、三百年周期は、比較的律儀に守られてきた。黒死病の発生が一三四〇年代であって、それからほぼ三百年という一六〇〇年代という

ことになる。確かに十七世紀半ば、ヨーロッパは激しいペストの流行に襲われる。その時の流行の有様を綴ったのがデフォーの作品である。原題は *Journal of the Plague Year* となっている。Daniel Defoe (c.1660-1731) は言うまでもなく、「ロビンソン・クルーソー」(一七一九年)の作者として広く知られている(翻訳は多数あり、しかも、この書物は三部に分かれていて、全訳にはなかなかならないが、最も新しく入手し易いのは第一部の鈴木恵訳、新潮文庫版、二〇一九年だろう)。彼は、作家というよりは現代でいえばジャーナリスト的な存在で、実際自ら新聞を発行した経験もあり、この疫病に関する著作も、タイトルは直訳すれば「ペストの年の日記記事」とも訳せる性質のものである(無論「Journal」には「日録」とか「日記」の意味もある)。従ってこの書は、文学作品というより

は、ロンドンの有様をリポーターとして記録したものに近い。

「the plague year」というのは、一六六五年のことである。デフォーは何時誰の死によってこの災禍が始まったかを記し、その後毎日のように、何処では何人の死者が現れたか、という数字を記し続ける。この部分(すでに冒頭からそうなのだが)を読むと、我々が、クルーズ船の患者発生から始まって、毎日TVが、今日の感染者数、死者数を報告しているのと、全く同じ印象を受ける。違うと言えば、現在の報告には、例えばアメリカの研究センターの一つジョンズ・ホプキンス大学が、毎日世界の情報を集めて、その集約版を発信してくれているところ位だろう。こうした災厄に際して、人を騙すような話が生まれるのも、いつの時代でも同じなようで、あるにせ医者は「疫病にもものすごくよくきく予防薬がある

が、これを身につけていると、けつし疫病に罹らない、少なくともそれに罹りにくい、といいふらしました」が、彼も「やがては疫病におかされ、二、三日もすると死んでいきました」などという報告を読むと、「二十六、七度のお湯を飲めば、コロナ・ウイルスに対応できる」などというもつともらしい噂が、ウェブ上に飛び交う我々の社会を思い知らされる。この書は「身の毛もよだつ疫病の、ロンドンを襲った一六六五年、うばった命は十万人、だが、わたしは生きのびた!」という詩文で結ばれる。

サミュエル・ピープス(Samuel Pepys, 1633-1703)の日記というのは、クロムウェル革命によってチャールズI世は処刑されたが、その後の王政復古の波に乗って、平民から権力機構の中核にまで上り詰めた男の長大な日記であ

る。生息年代から言って、一六六五年にはロンドンで生活しており、日記のなかには、疫病流行下のロンドンの情勢が、やや皮肉な調子で克明に描かれている。彼自身、その災厄を奇禍として、女遊びをしたり、結構したたかに生きている様が窺える。実際、デフォー

の作品のなかでもそうだが、このときのロンドンの市民たちは、十四世紀ボッカチオが描くフィレンツェの人々に比べれば、どこか明るい側面を偲ばせるような印象がある。因みに、このときイングランド地方を襲ったペストのお蔭で、ケンブリッ

ジのトリニティ・コレッジに在籍していたニュートンは、大学が休校になったために、故郷に暫く戻っており、そこで、彼の物理学的な仕事の基礎を構築することができた、とされ、しばしば、「ニュートンの強制された休暇」と呼ばれる。

『デカメロン』全六冊

ボッカチオ：著
野上素一：訳
岩波書店

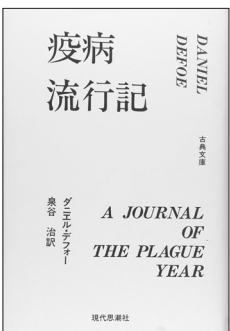
I 1948年、II 1949年、III 1957年、
IV 1958年、V 1959年、VI 1959年刊
文庫判、I 170頁、II 200頁、III 298頁、
IV 214頁、V 308頁、VI 290頁
I 616円、II 616円、III 726円、IV 616
円、V 726円、VI 726円(税別)



『疫病流行記』

ダニエル・デフォー：著
泉谷 治：訳
現代思潮社

1967年刊
B6判363頁
2800円(税別)



『サミュエル・ピープスの日記』全十巻

サミュエル・ピープス：著
白田 昭、岡 照雄、海保真夫：訳
国文社

1987-2012年刊
A5判各巻平均436頁
I~III 3200円、IV~VI 5000円、
VII 5200円、VIII 8500円、IX 6500円、
X 4200円(税別)



教父の思想と生きた
言葉を味わう醍醐味

〈評者〉 山田 望



アウグスティヌス著作集第19 / I
詩編注解(3)
アウグスティヌス著
佐藤真基子、片柳榮一、水落健治訳

本訳書は、アウグスティヌス『詩編注解』Enarrationes

in Psalmos の邦訳第三巻であり、彼がヒッポの司教を務めた三九五〜四一五年までに行なった詩編五四〜七五編に対する説教と、四一四〜五年に書き下ろされた二編の口述注解が収められている。翻訳書としては七三〇頁に及ぶ大部のもので、全体を通読し、かつ、とりわけペラギウス論争が展開された四一〜八年の間に執筆された説教を精読してみると、文法学・修辞学者、アレキサンドリア伝来の比喩的聖書解釈者、そして紛れもなく哲学者としてのアウグスティヌスの圧倒的な存在感を如実に伺わせる「注解書」であるとの認識をあらためて確認することができた。その点では、巻末のあとがきを書かれた水落氏が指摘しておられるように、文法学・修辞学者としてのアウグスティヌスの個性が最も如何なく発揮された「注解書」であることに

間違いない。

「注解書」と括弧を付した理由は、本書が『詩編注解』でありながらも、もはや『詩編』本文の歴史的・字義的釈義を遙かに超えて、旧約聖書の出来事や人物像は、後の新約聖書のキリストの出来事や諸人物の予型であるとする「予型論」を全面的かつ忠実に踏襲し、むしろ解釈の主眼は、新約のキリストによる贖罪における神の恵みの業を説き明かすことに集中しているからである。その予型論やキリストの贖罪への拘りの程度は、『詩編注解』でありながらも、かえって詩編テキストをよすがにしつつ、アウグスティヌス独自のキリスト教的人間論・救済論を展開させる書物になっていると言っても過言ではないほどである。

教父の説教集を読む醍醐味や面白さは、それが生身の聴衆を前に語られた説教者の肉声の最も忠実な痕跡であるが

ゆえに、説教者が日頃から意識し、心に引っかかっている懸案や論敵達への率直な思いが随所に透けて見えてくるところにある。これらの説教をヒッポの司教として当地の聴衆の前に語った(というより、説教としての異例の長さにより、集中力を欠いた聴衆への注意喚起を所々に入れ込んだり、熱が籠もって次第に論調がエスカレートする辺りから推察すれば、むしろ「捲し立てた」アウグスティヌスの場合も決して例外ではない。

興味深いのは、例えば、ペラギウス論争たけなわの四一四〜五年にヒッポで行われた詩編七〇編に対する二回の説教の中には、明らかにペラギウス派に対するアウグスティヌスの憤懣遣る方無い思いが滲み出た箇所が多数伺える。その例は枚挙に暇が無いが、例えば、「(彼らは)自ら行うことに寄り頼むため、自分の働きを賞賛し、神の恩寵にやってこない。商いをする人々は、この詩編が提示する神の恩寵に敵対しているのである。なぜなら……いかなる

人も自らの働きを賞賛しないようになるためである」(四八六頁)、「(彼らは)人間による救いを約束する傲慢な者たちのことである」(同)。

本書評者は、二〇一八年暮れに、幸運にもアルジェリア研究やローマ史研究の仲間達と共に、ヒッポやタガステなどアウグスティヌスゆかりの地を訪ねるといふ貴重な機会を得た。ヒッポの、アウグスティヌスが説教を行ったと伝えられる教会の遺跡に立ち入って、彼が座ったと言われる大理石の説教者席を目のあたりにした時、まるでそこにアウグスティヌスが腰かけているかのような不思議な錯覚を覚えた。アウグスティヌスの息遣いが感じられる本訳書を片手に、再びかの地を訪れたいと願っている。達意の、かつ熟れた訳文で本書を完成された佐藤氏、片柳氏、水落氏の翻訳者三氏に心より感謝申し上げたい。

(やまだ・のぞむ 南山大学教授)
(A5判・函入・七四〇頁・本体七五〇〇円+税・教文館)

キリスト教法倫理の浩瀚な力作

〈評者〉 千葉 眞



正義と法

キリスト教法倫理の基本線

W・フーバー 著

宮田光雄監修／佐藤司郎、木部尚志、小嶋大造訳

小嶋大造訳

本書は、現代ドイツの神学者でキリスト教社会倫理学者のヴォルフガング・フーバー（一九四二年―）による、以下の大著の邦訳書（七四九総頁）である。Wolfgang Huber, *Gerechtigkeit und Recht. Grundlinien christlicher Rechtslehre*, 3. Aufl. (Gütersloh: Gütersloher Verlagshaus, 2006). 「訳者あとがき」によれば、本書は「社会の中心的な構成要素である法を、キリスト教神学の観点から根本的に捉え直そうとした試み」であり、「法と倫理を分離する近代の流れに抗して、……人権と正義への希望とに方向づけられた法理解を提唱する」とされる。こうして本書は、「法と倫理」「法と正義」「法と軋轢」という三部門から構成されている。重要で興味深い考察や議論が多々展開されているが、ここでは紙数の制約上、「法と正義」の一部の議論のみに限定し、寸評を加えておきたい。

「法と正義」については、アリストテレス倫理学の正義概念および聖書の正義概念が、現代の法思想や正義論にいかに関与しているのかという議論が興味深い。フーバーの場合も、「正義」が「すべての法秩序の決定的な尺度」であり、同時に「法の支えを必要とする」とされる（二一〇頁）。アリストテレス倫理学において、古代ギリシア思想一般についてと同様に、「正義」は必ずしも「平等」を前提としていなかった。奴隷と女性は市民権から除外され、市民の間ですら生得的な素質と社会的役割から異なる扱いを受けることが当然とされている。しかし、狭義の正義概念として、社会の正当な秩序に従って諸個人に罪責や地位を割り当てる「配分的正義」、さらには諸個人の公正な関係や相互行為からの逸脱を調停し是正する「矯正的正義」について、アリストレスは考察している。これら二つの正

義概念は、周知のとおり、中世スコラ哲学および近代法思想を通じて現代の正義概念の原型となっている面があり、重要な意義を保持している。

聖書の正義概念は、旧約聖書のミシュパトやツエダカにせよ、神の信実と正義、人々の相互性を前提とした「関係的正義」の概念である点に大きな特徴がある。それゆえに紀元前八世紀の預言者たちの使信に明示されたように、「小さき者たち」への公正な処遇を求める「社会正義」として提起されたと論じられる。

本書でフーバーは、こうした正義概念を、女性差別の問題や環境的正義の問題などに適用し、現状の是正を強く求めている。例えば後者に関しては、「人間の利害」に根拠づけられて自然や景観を保護すべしとしてきた従来の「自

己保護の人間主義」を打破し、「自然の尊厳」を認め、人類が「自由」において「自己制限の倫理」を稼働させ、「法秩序の生態学的転換」を図るべきだとの啓発的な議論を行っている。「将来世代の生きる可能性のために、そして自然の尊厳のために不可欠である自己制限は、国際法のレベルと共に、個別国家の憲法的秩序や法的秩序のレベルでも実現されなければならない」と主張している（四二九頁）。神学的考察に依拠した「キリスト教法倫理」という新しい専門分野の誕生、このことを喜びたい。そしてこの浩瀚な力作が、すぐれた訳業のもとで刊行されたことを喜びたい。

（ちば・しん 国際基督教大学名誉教授）

（A5判・七四九頁・本体九五〇〇円＋税・新教出版社）

ヨベルの新刊案内

金子晴勇 著

わたしたちの信仰

その育成をめざして

新書判・二四〇頁
二二〇〇円

聖書、古代キリスト教思想史に流れる神の息吹、生の輝きを浮彫！
アウグスティヌス、ルター、エラスムスらに代表されるヨーロッパ思想史の研究者が、キリスト者として、聖書をどのように読んできたか、信仰にいかに関与してきたかを優しい言葉でつむぎなおした40の講話集。

金子晴勇 著

キリスト教思想史の諸時代Ⅰ

ヨーロッパ精神の源流

新書判・二四〇頁
二二〇〇円

全6冊にて刊行予定
装幀は変更される場合があります

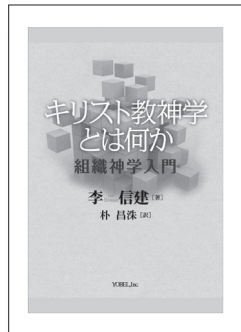
1 ヨーロッパ精神の源流
2 アウグスティヌスの思想世界
3 ヨーロッパ中世の思想家たち
4 エラスムスと教養世界
5 ルターの思索
6 宗教改革と近代思想

【近刊案内】新書判・二二四頁・二五六頁
各巻予備二二〇〇円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (62別)

信仰者の実存から 世界に向かう広がり

〈評者〉齋藤五十三



キリスト教神学とは何か
組織神学入門
李 信建著
朴 昌洙訳

本書は、ソウル神学大学の組織神学教授として教鞭を取ってきた李信建氏による組織神学入門書の邦訳である。一九九二年に韓国で出版後、二度の増補改訂を経るほど長く読まれてきた本書が、朴昌洙氏の労により邦訳されたことを歓迎したい。

本書は入門書として書かれたものであるが、著者の四十年にわたる学究の成果が随所に生かされており、内容の充実度は入門書とは思えぬほどである。本文が三三二頁と組織神学書としてはコンパクトだが、扱うべき論点はほぼ網羅している。その中でも特に印象に残った二点を指摘しておきたい。

第一は、本書が信仰者の実存の問題を正面から扱っていることである。それが顕著に現れているのが「信仰とは何か」という第2章である。序論の第1章の後、本書の本論

は第2章から始まり、「信仰は今も変わらず可能であるのか」という問いかけで筆が起こされていく。これはポストモダンの相対化が進む時代の思想の中にあつて、当然問われなければならない課題であろう。そのようにして第2章から4章まで、本書は信仰論を様々な角度から展開していくが、目を見張るのは論考における対話の豊かさである。テュービンゲン大学でモルトマンの指導を受けた李氏は、近現代の神学に精通しており、信仰論においても多くの神学者たちとの対話を重ねている。そのような対話を通して本書が示す信仰の定義は、神に「信頼する知識であり、知恵のある確信」（四八頁）という、「信」と「知」の不可分性を示す伝統的な理解であった。豊かな神学的対話を経ての理解ゆえに、その意味するところは深く、読者にも納得と安心感を与えるものとなっている。

第二は、本書が絶えず「世界」をその神学の視野に入れている点である。信仰者の実存を問うて始めた本書は、頁が進むほどにその視野を広げていく。それが最も顕著なのが「創造・解放・和解」を扱う第12章であった。通常、「創造」を扱う時には「墮落」「救済」が続くのが一般的だが、ここで本書は、この「伝統的な救済の図式」を克服する意図を明確にしていく（二七三頁）。出エジプトが圧制と強制労働からの解放であったことを例に挙げながら、この現実世界に働きかける神の御業の本質を、政治的、社会的様相も視野に入れた解放として捉えつつ、本書は、御業の最終目標を神と人間と自然の間に実現する「万物の和解」に定めていく。この目標は、伝統的組織神学に解放の神学の統合を試みる本書の神学的方向性を示すものとなっている。

このように視野の広い本書だが、組織神学書に完璧はあり得ないので、一つ注文をつけさせて頂く。本書は啓示論を扱っていないため、神学構築における方法論が見えにくくなっている。李氏の啓示論を読んでみたかたの思いが残っている。

とは言え、若き日にモルトマンの指導を受けた李氏の神学には、根底に希望を感じさせる調べが奏でられている。コロナ禍の時代を生きる読者は、本書を通して明るい読後感を得ることだろう。最後に一言。訳者朴氏（新潟聖書学院専任教師）の文章は明晰で、宣教師である同氏の日本語に対する理解度の高さを示すと共に、宣教地日本に対する愛も垣間見え、静かな感動を覚える訳書に仕上がっている。

（四六判・三九二頁・本体二〇〇〇円＋税・ヨベル）

神と共に変わりつつ

ルカ福音書を読もう上

この世を生きるキリスト者 及川信

たとえ話の宝庫であるルカ福音書を、全体の文脈を通して読み解くことで、一つひとつのたとえ話がさらに深く私たちの心に響く。

四六判並製・280頁・2860円

信仰生活(再)入門シリーズ第3弾

信仰生活ガイド 全5巻

第3回配本

使徒信条 古賀博編

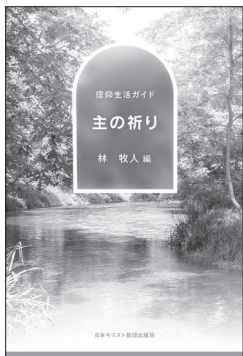
キリスト教信仰の「骨格」と言えるべき使徒信条を、現代日本に生きる人々の生活と密に寄り添いつつ、分かりやすく解き明かす。自身の信仰の土台を確認するため。

四六判並製・128頁・1430円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.ucci.or.jp 《価格10%税込》
<http://bp-ucci.jp>

主の祈りのドラマを見るように 引き込まれてしまう

〈評者〉 篠田真紀子



信仰生活ガイド
主の祈り
林 牧人編

編集者の林先生も「はじめに」の中で、ご自身が幼い日に「主の祈り」を覚えたことから書き始めておられますが、私は二人の娘が生まれたその日から、毎晩主の祈りを祈ることが子ども達の眠りへの導入儀式でした。まだ言葉を発しない幼子が、一体いつからこの祈りを一緒に祈り始めるのだろうか？ と少し実験するように楽しみつつ毎晩祈りしました。そして待ち望んだある日、子ども達は自分の口で、主の祈りを祈り始めました。次女は、なぜかいつも「我らの日用の糧を……」を三度繰り返しました。本能的にその祈りが最も大切！ とでも感じ取ったのでしょうか。

本書でも「主の祈りは教会史上の最大の殉教者」と語り、「唱えられるが、祈られることはない」と嘆いた宗教改革者M・ルターの言葉（七頁）が引用されていますが、親から子へ、またキリスト教主義の幼稚園、保育園、学校で

……と幼き日に意味も分からず覚えた主の祈りを、まずはただ唱え続け、後でその意味を学ぶという方も多いのではないのでしょうか？ 本書は、そういう人にこそ読んでほしい、主の祈りの説き証しの書です。

本書の元になっているのは、二〇〇八年から二〇〇九年の『信徒の友』の特集記事です。祈りの本文の解説の前に「主の祈りとは」というお二人の先生の文章と、終わりに「主の祈りの祈り方」という書下ろしが加えられて、一冊に編集されました。様々な背景を持った熟練の牧師たちが、その人生と牧会経験の中から、十回にわたって主の祈りを説き証していきます。その文章は、「主イエスの命のこもった」福音の要約」（二二頁）として、まさに唱えるものではなく真実に祈られた主の祈りの出来事の記録で、まるで短編のドラマをいくつも見るように引き込まれて読めてしまうのです。

「み名をあげさせたまえ」と一気に扱わず、「み名」と「あがめさせたまえ」と二回に分けて、また「我らに罪をおかす者を……」の祈りも「我らの罪をもゆるしたまえ」と「我らがゆるすごとく」の二回に分けて、恐らく誰もが一番引つかかるであろう所が丁寧に説き証しされます。そうして、神に呼ばれて、神を呼ぶ「我ら」（三六頁以下）とされる

恵みが明らかにされ、「アッバ、父よ」と、神のひとり子だけが祈ることができた親しき祈りは、今、神の子である私たちに与えられて」（一六頁）いるのだと語られています。

古くから主の祈りは、洗礼準備教育の中で教えられ、洗礼を受けキリストのものとなった者たちが聖餐式において祈る「弟子たち」の祈りでした（一三頁）。かつて主イエスご自身が、ユダヤ人キリスト者には「律法学者や、ファリサイ派の人々の祈りとは異なる、新しい祈り」として教え、異邦人キリスト者には「祈りとは何か」を教えた（一二三頁）

のと同じように、洗礼志願者に伝えられたのです。本書を通して主の祈りは、キリストの弟子たちと、「神の御心の成就」としてある現在の教会（七三頁）とに与えられた新しい生活の祈りであることが分かります。

個人的には、筆者である太田愛人^{あいと}牧師自身の経験に恐らく根ざした迫力ある言葉、「戦争末期や敗戦の飢えで苦しんだ者は戦争放棄こそ飢えからの脱出であることを体験したはず」として、「日用の糧」の祈りが「平和を実現する人々は、幸いである」の教えにつながる祈りであり、地球上で武器ではなくパンを与え合うことをこそ祈り求め、実現すべき……（八三頁）に開眼させられ、心震える思いでした。

教会のあらゆる集会のテキストに最適であり、信仰の有無にかかわらず個人でも世代を超えてお奨めしたい一冊です。
（しのだ・まきこ）日本基督教団浅草教会牧師
（四六判・二二八頁・本体二三〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局）

神の愛への信頼へと招く 「生きた言葉」説教！

【評者】ゲオルギイ 松島雄一



焚火を囲んで聞く神の物語・説教編
アブラハムと神さまと星空と
創世記・上
大頭真一著

私は正教会の司祭です。若き日、福音に心奪われたとき、祖父が日露戦争出征に際し正教会で受洗した因縁で、神田ニコライ堂に駆け込み、そのまま正教しか知らずにきてしまいました。西方教会に対しては長い間、神学校時代に教えられた「間違った教え」へのステロタイプな理解しか持っていなかったと言えるでしょう。

そんな私にとって、大頭先生が本著で語っている創世記の「物語」はまことに新鮮でした。驚きと言ってもよいでしょう。それは新奇なものへの出会いによるものではありません。正教会が普通に語っている、なじみ深い理解そのままだがそこにあります。「解説」で勝俣慶信先生が「ここに、インマヌエルなる神さまの真のお姿が見えてくる気がいたします」と書いておられますが、私には正教が依拠する「古代教会の教父たちの共通理解」が浮かび上がってきます。

ではない。じゃあなぜ起こったのか。私たちはわからないことが、たくさんあります。小さな限られた私たちに、は、わからないことが多くあります。でも私たちには一番肝心なことが示されています。教えられています。それは、神さまが私たちを愛してくださっているということ。私たちには想像もつかないような大きな愛で愛されているということ。だからどんな出来事のなかにも、そこを神さまの愛が貫いているということ。私たちが知っておくべきです。そして私たちが悲しんだり痛んだりするときには、私たちが以上に神さまが悲しんでおられるということ。このことだけを知っておくならば、このいろいろなことが私たちの目の前に開かれていくと思えます（一〇二頁）。

しかも、大頭先生の明晰かつ熱っぽい、耳を傾けている方々へ少しでもわかりやすく伝えたいという愛にあふれた語り口によって。

しかし、本著は「創世記」が私たちに教えようとしているのは何なのかを説明するだけの本ではありません。そういう本なら他にもあるでしょう。本著は何よりも、愛するお嬢様に突然先立たれた大頭先生とそして奥様が、神さまの愛への信頼へと、耳を傾ける者一人ひとりをまるで抱きしめるように、招いてくださっている「生きた言葉」なのです。

先生はこう語っています。

「思いがけない自然災害や、愛する者たちの突然の死に直面するときに、どうして神さまがこんなことを、と私たちは思う。けれどもそれは、神さまが起こされたこと

またアブラハムへの神の祝福を私たち一人ひとりへの祝福に重ねてこうおっしゃっています。

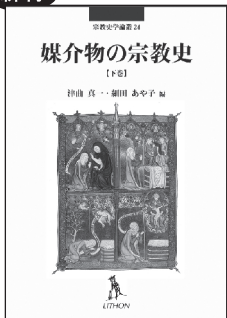
「私たち夫婦もじつと悲しみに耐えているような毎日があります。けれども、天地を造られた神さまが私たちに祝福してくださっています。悲しみもまたこの神さまに抱きかかえられながらの悲しみ。妙な言い方かも知れませんが、神さまの祝福のなかで悲しんでいます。悲しみも神さまの祝福から漏れていない」（一七〇頁）。

本著は、この悲しみの「現場」で確かめられた神の愛と祝福への絶対の信頼を土台にして、「神の物語」へと私たちが誘われます。

（まつしま・ゆういち）大阪ハリストス正教会司祭
（新書判・二三四頁・本体一〇〇〇円＋税・ヨベル）



新刊



宗教学論叢24

媒介物の宗教史

【下巻】

津曲真一・細田あや子 編

●A5判上製 本体5,000円＋税

寺戸淳子 恵みの「座」、「永遠」の痕跡—聖遺物、イコン、写真／細田あや子 メソポタミアのアーシブの儀礼にみる媒介物／渡辺和子 メソポタミアの祈りの媒介物／深谷雅嗣 新年の布—古代エジプトの呪術／津曲真一 媒介物と儀礼空間—テルダク・リンパの完成儀礼論／池澤優 戦国秦漢の墓葬における死者と死後世界の表象／深澤英隆 描く手の媒介性と無媒介性—「霊媒絵画」の周辺／他7篇

ISBN978-4-86376-080-6

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
☎ 03-3238-7678 FAX 03-3238-7638

信仰への、更には信仰の育成

〈評者〉 原田博充



わたしたちの信仰
その育成をめざして
金子晴勇著

本書の著者金子晴勇氏は、大著『ルターの人間学』(一九七五・七六年日本学士院賞受賞)や『アウグスティヌスの人間学』(一九八二)をはじめ、西洋精神史に関する大小数々の書物を「人間学」の視点から発表してきた碩学である。八八歳を迎えた今年六月にも生涯の研究の集大成として、またもや大著『キリスト教人間学——ヨーロッパ思想と文化を再考する』(知泉書館)を出版された。本書「はじめに」によると、これらの学問的著作はすべて難解で、「もう少しやさしいものを書いてくれ」と言った旧友もあるらしい。そこで著者が所属する井草教会や老年になってから勤めた聖学院大学でわかりやすく話した学内講話や説教の中から四〇編を選んで編集したものが本書である。四〇編を選んだのは、モーセの荒野の旅四〇年になぞらえた故であると言う。

各編毎に、まず有名かつ重要な聖句が掲げられ、それらを出し、「赤裸々な自己の認識と告白」を呼び起こし、「霊と真理による礼拝」に目ざめさせる次第がわかりやすく語られる。本書のカバー写真には、レンブラントの「キリストとサマリアの女との対話」が選ばれている。

今一つ「13 二つの愛の物語 ヨハネ一三・三四」を紹介しよう。ここでも前半には、このサマリアの女と主イエスとの対話がくり返し取りあげられるが、講話の後半では、それとの対比として古代ギリシアのオヴィディウス作『変身物語』に展開する「ナルキッソスとエコー」の愛の物語が紹介される。あのよく知られた水仙の物語である。こういう構成、つまり聖書の物語や御言葉をギリシア・ローマを初め西洋精神史上の出来事や逸話を援用し、それと対比して理解を深めようとするところに本書の特徴がある。


の御言葉の真理をギリシア・ローマをはじめ西洋精神史についての著者の該博な知識も援用して説明し、説き明かす形で構成されている。旧約聖書から十編、たとえば、創世記一・二七、詩編五一・一九など有名かつ重要なテキストが取り上げられている。新約聖書からは、福音書から一四、パウロ書簡一・二、その他四となっている。

四〇編のうち、二つほど講話の内容を短かく紹介しよう。まず「11 霊と真理による礼拝 ヨハネ四・二四」は、主イエスがサマリアを通過して郷里ガリラヤへと旅をした時、その途上サマリアのスカルの井戸辺で出会った「サマリアの女」に、さりげなく、「水を飲ませてください」と語りかけ、やがて不品行の故に五人の男と関係していたこの女の深い闇に迫り、「井戸の水」から「生ける水」を経て「永遠の命に至る水」へと話をすすめ、女の暗闇部分を照らし

本書の表題は『私たちの信仰——その育成をめざして』である。「私たちの信仰」は使徒信条で告白される正統的な信仰であるが、「その育成をめざして」とはどういうことであるろうか。「信仰」は、「育成」とか「成長」によって得られるものではなく、神の啓示への瞬時的「決断」によって得られるという側面をもっている。しかし、その決断の前にも後にも、信仰への育成の時がある。本書は、まさに著者の該博な知識を援用して、読者に信仰への育成をもたらすものである。


本書は、どの一編から読み始めてもよいが、特に少し聖書を読み始めてこれからキリスト教の真理を深く学び始めようとする人々などにおすすめるべき書物である。

(はらだ・ひろみつ 京都みぎわキリスト教会前牧師)
(新書判・二四〇頁・本体一・一〇〇円＋税・ヨベル)



神曲つれづれ


住谷眞
SUMITANI Makoto



変わり種『神曲』入門

ダンテ (Dante Alighieri)
没後 700 年 (2021年)
におくる、
一『神曲』愛好家が
つれづれなるままに
書き溜めた、
100 のエッセー。

A5 判
定価【本体 2,500 + 税】円
ISBN978-4-86325-124-3



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢 3 丁目 4-10
TEL (011) 578-5888
<https://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zeninkan_syoten_0530@afso.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・1771F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	〒新中延町2-2 榎ヶ丘センタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	00160-2-18410
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taisindo-books.jimbo.com/	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www7.biglobe.jp/~yohatara.cbs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	02250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunshala.coccan.jp/	nagoya-seibunshara@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東1ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	共用		kobe-kirisyo@mse.biglobe.ne.jp	01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/masujama_1007/index.html	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用		kbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	903-0207	中環通調子線777 沖縄キリスト教館内	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※ 一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

四六判・3368頁・本体3600円

善であり全能である神がなぜ悪や苦しみの存在を許しているのか？ 聖書における悪の描写やキリスト教史上の主要な神義論の長所と短所等をまとめ、新たな対話の道筋を提示する。

苦しみと悪を神学する

——神義論入門

マーク・S・M・スコット著／加納和寛訳

小B6判・352頁・本体予価2200円

■教文館

■新教出版社

カール・バルト著／天野有・宮田光雄訳

戦後間もない一九四六年の夏学期、敗戦に打ちひしがれるドイツの学生たちに使徒信条を用いて行った教義学入門。神学全般のみならずバルト神学への入門書としても長く愛読されてきた名著が、天野有・宮田光雄両氏の達意の訳によって清新な姿で甦る。

A5判・上製・680頁・本体7500円

者による、聖書神学、教会教育、キリスト教学校教育、教育者養成、人間形成など多岐にわたる視点からキリスト教教育学を論じた集大成。後学の人々のために。東京神学大学学長・芳賀力教授推薦。

■キリスト新聞社

キリスト教史の学び(下)

越川弘英著

宗教改革から、現代に至るまで、世界の隅々まで宣教が広がっていく様子を分かりやすく解説。エキキュメニカル運動など、現代社会における世界各地のキリスト教の姿も紹介。

A5判・346頁・本体予価2200円

■日本キリスト教団出版局

病と信仰

——病を担うイエスと生きる

黒鳥偉作著

病者にキリストが寄り添い、その病を共に担ってくださったこと。そして病者自身がキリストに倣って、他者と共に歩む者とされていくこと。医療の最前線に立つ医師であり、伝道者でもある著者が、旧新約聖書、生涯の師・平山正実、ヘンリ・ナウエンに学びつつ記す。

四六判・144頁・本体1300円

現代キリスト教教育学研究

——神学と教育の間で

朴憲郁著

多くの神学生を教会・教育の働きの場に送り出してきた著

INFORMATION

近刊情報

Ministry

時時代の教会をゲンキにする

本体1,500円+税
(年間購読料6,000円+税)

[ミニストリー]

全42の
総力特集!

コロナ禍と向き合う —『新しい教会様式』の模索

座談会 鈴木聖住 × 中村恵久 × 吉岡恵生
「教会の情報発信はどう変わるのか」

小西広志司祭インタビュー
「コロナ禍とカトリック教会」

本誌編集委員が考える「教会が問われたこと」



2020.6
Ministry
45

全42の総力特集
コロナ禍と向き合う
「新しい教会様式」の模索

「教会の情報発信はどう変わるのか」
鈴木聖住 × 中村恵久 × 吉岡恵生
小西広志司祭インタビュー
「コロナ禍とカトリック教会」
本誌編集委員が考える「教会が問われたこと」

特報! 神学最前線

「コロナ禍とオンライン・ミニストリー」

牧会お悩み相談所

「『コロナ疲れ』してしまいました」 藤掛 明

『命の登録台帳』『神への保証金』に続く第3巻『恵みによって』、ついに刊行。

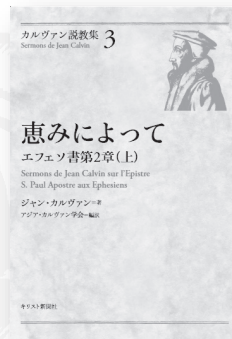
カルヴァン説教集 3

Sermons de Jean Calvin

恵みによって

エフェソ書第2章(上) Sermons de Jean Calvin sur l'Épître
S. Paul Apôtre aux Éphésiens

ジャン・カルヴァン=著 アジア・カルヴァン学会=編訳



カルヴァン説教集 3
恵みによって
エフェソ書第2章(上)
Sermons de Jean Calvin sur l'Épître
S. Paul Apôtre aux Éphésiens

ジャン・カルヴァン=著
アジア・カルヴァン学会=編訳

救いに関するパウロの教えを丁寧に、かつダイナミックに語り直したカルヴァン。福音の持つ救済の豊かさ、恩恵の崇高さを表現したその説教を、軽妙洒落な仏語原文と精緻な邦訳で味わい尽くす。

A5判・上製・232頁・本体3,300円+税

カルヴァン説教集シリーズ

現代の説教においても見過ごせないカルヴァンの説教者としての真骨頂を、現す名説教の、臨場感あふれた、精緻な邦訳。



カルヴァン説教集 1

Sermons de Jean Calvin

命の登録台帳

エフェソ書第1章(上)
A5判・上製・298頁・
本体2,800円+税



カルヴァン説教集 2

Sermons de Jean Calvin

神への保証金

エフェソ書第1章(下)
A5判・上製・266頁・
本体2,700円+税

全国のキリスト教書店員が選んだいちばん読んでほしい本

キリスト教書店大賞2020

2019年1月~12月に出版されたキリスト教書の中から、
全国のキリスト教書店員
の投票により **大賞が決定!**



ナウエン・セレクション

今日のパン、明日の糧

暮らしにいのちを吹きこむ366のことば

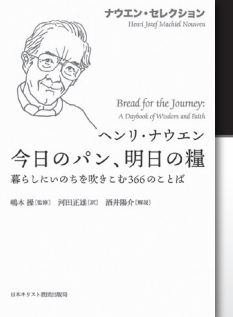
ヘンリ・ナウエン著 嶋本 操監修 河田正雄訳 酒井陽介解説
2,640円

オススメ

揺れ動くことが否定的に捉えられがちの中で、揺れ動き、迷うことへの肯定があることに救いを感じられます。
アパコ・ブックセンター
山本真里江さん

受賞のことば

ここに紡がれているメッセージを一言で表すと、「見よ、この人を」だと思います。勿論、この人とは、イエス・キリスト。この日々の小さな黙想は、ナウエンの眼差しの先にあったイエスを共に見つめるように招いています。ナウエン渾身の日々の語り、いただきます! 解説者 酒井陽介(イエス会司祭)



日本キリスト教団出版局

第2位 にゃんこバイブル

猫から学ぶ聖書のことば

塩谷直也 著 勝間としを 絵 1,980円

オススメ

表紙のイラストのかわいさに手に取り、各ページの猫たちにはっこりし、添えられているみことばとエッセイが更に心をいやしてくれます。
ライフセンター新潟書店 永井美智代さん



保育社

第3位 神の祝福をあなたに。

歌舞伎町の裏からゴッドブレス!

関野和寛 著 1,100円

オススメ

前作に比べてタイトルがおとなしいなあと思ったのですが(笑)、舞台は変わらず笑いど涙と神さまへの熱い想いであふれていました。
大阪キリスト教書店 上田玲子さん



日本キリスト教団出版局

第4位

かみさま、きいて!
こどものいのり

大澤秀夫 / 眞壁 巖 監修
1,100円 日本キリスト教団出版局



第5位

若者に届く説教

礼拝・CS・ユースキャンブ
大嶋重徳 著
1,320円 教文館



第6位

ぬくもりの記憶

片柳弘史 著
1,100円 教文館



第7位

十字架への道
受難節の黙想と祈り

小泉 健 著
1,320円 日本キリスト教団出版局



第8位

愛の余韻
榎本てる子・榎本の仕事

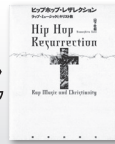
榎本てる子 著
青木理恵子 編
1,980円 いのちのことば社



第9位

ヒップホップ・レザレクション

ラップ・ミュージックとキリスト教
山下壮起 著
3,520円 新教出版社



第10位

新しい一人の人

キリストのからだにおけるユダヤ人と異邦人の和解
アリエル・ロマン・スガ・マンゾーニ 著
ONE NEW MAN 翻訳チーム 訳
2,200円 ゴスペル・ライト出版



主催 キリスト教出版販売協会
※表示価格は10%税込価格

キリスト教書店大賞のページで「いいね!」をクリックして最新情報をGET!

<https://www.facebook.com/christianbookoftheyear/>



一麦出版社

http://www.ichibaku.co.jp/
携帯サイト mobile.ichibaku.co.jp/ Ichibaku Shuppansha Publishing Co., Ltd.



JKに語る！ 新約聖書の 女性たち

説教集



久野牧〔著〕

カタブツ牧師と
JKとのミスマッチ!?

カタブツ牧師 × フリーダムJK
絶対に重ならない2人の絶妙なマッチ！
いざ、キックオフ！

JKのクエスチョン(‘ω’)
↓
アンサーする説教者(∴)

(‘-’)..oO (JKによるつぶやき)も収録!

新約聖書に出てくる女性たち、ぜんぜん映えないけど超エモくて草wwwww
タピリながらマジ語ろ～!

(おじさんには、なんのことだか、
ぜんぜんわからないけどね!! σ^_^)

「今、あなたには分かるまいが、後でわかるようになる」(ヨハネによる福音書 13章7節)……ってマジ!?

A 5判変型 定価〔本体 1,600 + 消費税〕円 ISBN 978-4-86325-121-2



500 years of Reformation

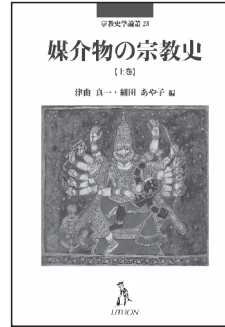


LITHON [リトン]

101-0061 千代田区神田三崎町 2-9-5-402
☎03-3238-7678 FAX 03-3238-7638



最新の刊行物より



媒介物の宗教史 [1巻]
津曲真一・細田あや子 編
●A5判上製●本体4000円+税



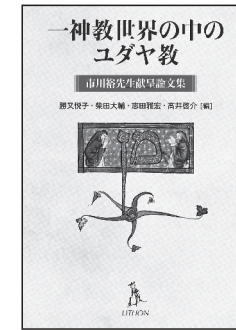
イエスから初期キリスト教へ
新約思想とその展開
日本新約学会 編
●A5判上製●本体5000円+税



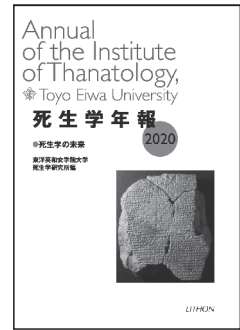
エルトムート・ドロテア
ヘルンフォート同僚教団の母
エリカ・ガイガー著 梅田與四男訳
●四六判並製●本体2000円+税



ユダヤ教とキリスト教
上智大学キリスト教文化研究所 編
●四六判並製●本体2,000円+税



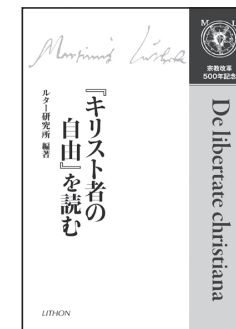
一神教世界の中のユダヤ教
勝又・柴田・志田・高井 編
●A5判上製●本体5000円+税



死生学年報 2020
死生学の未来
東洋英和女学院死生学研究所 編
●A5判並製●本体2500円+税



アウグスブルク
信仰告白
メランヒトン著 ●ルター研究所訳
●B 6判並製 ●定価：1000円+税



『キリスト者の自由』
を読む
ルター研究所編著
●B 6判並製 ●定価：1000円+税



エンキリディオン
小教理問答
ルター著 ●ルター研究所訳
●B 6判並製 ●定価：900円+税

福音と世界

2020年09月号

特集 責任という旅路

寄稿者＝藤高和輝、金城美幸、生田武士

大畑凜、韓昇憲、影本剛

好評連載 「Say a Little Prayer」開かれる世界(栗田隆子)、「いまを生きているみことは」(金退野)、「バジロンの路上」Conjuncture of a Son of a Preacher Man (マニエル・ヤン)、「くまざんのシネマめぐり」(好井裕明)、教父学入門(土井健司)、新約釈義 第二モテ書(注学)ほか

A5判・本体600円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyō-pb.com

編集室から

新型コロナウイルスで世の中が混乱を極める中、日本基督教団牧師、山田稔先生が亡くなられたことを知らされた。きつと、ご遺族の配慮だと思いが葬儀の情報は分からなかった。

山田先生は生前熱心に牧会をなさり、その働きの連なりとして私が所属している団体も支えてくださった。新入職員だったとき山田先生はすでにご高齢だったので接した時間は短かったが、隠退後の今も職場には、先生の活動の痕跡が残っている。そんなお世話になった先生をお送りすることができなかった。

生活のすべてを狂わせた新型コロナウイルス。感染の不安と、仕事が進まない不安で毎日が過ぎていく。

緊急事態宣言が発動されたときは、著作権のオンライン

予告

本のひろば

2020年10月号

本・批評と紹介

(巻頭エッセイ)「書物に魅せられて」吉川直美、(書評) 任哲完著『信仰と人生』、森島 豊著『抵抗権と人権の思想』、フリッツ・ブリー著『実存の神学』、ジャン・カルヴァン著『恵みによって―エフエソ書第2章(上)―』他

に関する問い合わせが相次いだ。人手の少ない職場はこれまでに例のない対応が迫られ、一時、大変忙しくなったこともあった。

しかし、団体の活動と制作してきた出版物が、今この難局において誰かの役に立とうとしている。そう考えると少しでも早くできることをしたいと思った。

「みなさん工夫をされて、乗り越えようとなさっているのですね」との著者の言葉に励まされて安心感が広がる。他にもマスクをくださる方や、自粛中の出勤に労いのメールやお便りをくださる方がいた。インターネットを活用した新しい取り組みを緊急企画すると、協力的な姿勢で応援してくださる方にも感謝の気持ち溢れる。山田先生もかつての職員をこんな風に助けてくださったに違いない。大切に覚えて活動の原動力にしていきたいと思った。(吉崎)

8月25日刊行

最新の研究成果や新事実を反映した約5150人のキリスト教関係者を網羅。
日本キリスト教史研究の里程碑ともいべき必須の基礎文献。

鈴木範久 監修 日本キリスト教歴史大事典編集委員会 編

日本キリスト教歴史人名事典

宗教、政治、社会福祉、実業、教育、学問、芸術、スポーツに至るまで、現代日本の文化、地域社会の形成に多大な影響を与えてきたキリスト教とその信徒たち、および関係する人物たちの足跡を、全教派にわたって有名・無名を問わず取り上げ、詳細で確かな記述を提供する。

●B5判・函入・984頁・本体45,000円 ◆特別定価 本体42,000円 (2020年11月30日まで)

呈・内容見本

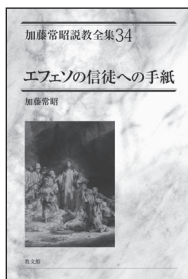


加藤常昭説教全集第IV期第一弾!

加藤常昭説教全集 34

エフエソの信徒への手紙

加藤常昭 著



隠退後の二〇〇九年から二〇一〇年にかけて鎌倉雪ノ下教会で語ったエフエソの信徒への手紙の講解説教。

●四六判・上製・276頁・本体2,700円

加藤常昭説教全集第IV期刊行開始

「若い時の説教」や「隠退後の説教」に加え、FEEBCで語った聖書講話を収録。

2020年8月より順次刊行
乞うご期待!

第31巻 使徒言行録講話

第1回配本予定

第32巻 コリントの信徒への手紙一講話

第5回配本予定

第33巻 コリントの信徒への手紙二講話

第6回配本予定

第34巻 エフエソの信徒への手紙 8月刊行

第1回配本 本体2,700円

第35巻 新約聖書書簡の説教1

第2回配本予定

第36巻 新約聖書書簡の説教2

第3回配本予定



